

氏名	山 田 茂
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 219 号
学位授与の日付	昭和42年 6 月 30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学位論文題目	尿路結石の研究 第1報 尿石症の臨床的観察 —最近 8 年間の教室の症例について— 第2報 尿路結石溶解の研究
論文審査委員	教授 大村 順一 教授 谷 奥 喜平 教授 砂田 輝武

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

第 1 編 尿石症の臨床的観察 —最近 8 年間の教室の症例について—

尿石症の研究の一端として、昭和30年 1 月より昭和37年末までの満 8 年間に教室で取扱った尿石患者 1,164 名について、年度別推移、上下比、患側、年齢別分布、男女比、尿管結石の位置的分布、家族歴、主訴、発病より来院までの期間、尿石の化学分析、合併症、尿石症の pH、尿石症の治療等の項目について考察を加えた。

昭和39年 6 月、泌尿器科紀要、第10巻第 6 号掲載

第 2 編 尿路結石溶解の研究

結石の薄片を作製、成分及び構造を研明し、これを種々溶解剤中に浸し、偏光顕微鏡を用いて、その成分がどのように溶解して行くかを観察した。成分としての易溶性の順位は Struvite (磷酸安門マグネシウム 6 水化物)、Apatite (磷灰石)、Weddellite (蔞酸石灰 2 水化物)、Whewellite (蔞酸石灰 1 水化物)、Uric acid, Cystine の順で、溶解剤としては Tetrasodium E. D. T. A. が抜群で、Disodium E. D. T. A., Renacidin, Solution G. Solution M, Gurcuronic acid, Urease の順に易溶性であった。一方 Disodium E. D. T. A. の pH を補正してみると、濃度は一定なるも、同一成分で易溶性に可成りの差が認められ、Weddellite. Whewellite, Uric acid, Cystine は pH が高くなる程易溶性で、Apatite は pH に余り左右されず、Struvite は pH が低くなる程易溶性であった。

論文審査の結果の要旨

本研究は、教室の症例を観察して、上部尿路結石は蔞酸塩含有の多いことを認め、その溶解法として、結石の薄片を作製し、これを種々の溶解液中に浸し、その溶解現象に明解な知見を示し、価値ある業績であることを認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。